教育研究業績書

2016年10月01日

所属：建築学科　　資格：教授　　氏名：柳沢　和彦

研究分野	研究内容のキーワード
建築設計計画	空間図式、居住空間構成法、風景構成法、発達、病理、比較文化、建築プログラミング
学位	**最終学歴**
博士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 博士後期課程 退学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2013年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題2の教員案作成	2013年05月～06月	建築設計総合演習Ⅰ課題2「地球環境に配慮した組バラシ自由な建築」において、教員による設計参考案として図面を作成した。
2. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2013年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の教員案作成	2013年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「闇と光と空間」において、教員による設計参考案として図面とパースを作成し、講評会にて発表を行った。
3. 武庫川女子大学建築学科2年　2012年度　「建築設計演習Ⅱ」課題1の教員案作成	2012年09月～10月	建築設計演習Ⅱ課題1「祈りの空間」において、教員による設計参考案として仏像スケッチと図面を作成し、講評会にて発表を行った。
4. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2012年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の教員案作成	2012年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「闇と光と空間」において、教員による設計参考案として図面とパースを作成し、講評会にて発表を行った。
5. 講義における小テストの実施	2011年10月～現在	講義において、担当期間の途中で小テストを実施し、その結果を学生にフィードバックすることで、継続的な学習を促すとともに途中段階での知識の定着を図る。
6. 武庫川女子大学建築学科2年　2011年度　「建築設計演習Ⅱ」課題1の教員案作成	2011年09月～10月	建築設計演習Ⅱ課題1「祈りの空間」において、教員による設計参考案として仏像スケッチ、図面、模型、パースを作成し、講評会にて発表を行った。
7. 武庫川女子大学建築学科4年　2011年度　「建築設計演習Ⅴ」課題3の教員案作成	2011年06月～07月	建築設計演習Ⅴ課題3「水辺の楽園」において、教員による設計参考案として図面、模型、パースを作成し、講評会にて発表を行った。
8. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2011年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の教員案作成	2011年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「光と闇と住宅」において、教員による設計参考案として図面とパースを作成し、講評会にて発表を行った。
9. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2010年度「建築設計実務Ⅰ」における学生実務提案	2010年09月～2011年01月	「建築設計実務Ⅰ」において、実際のプロジェクトにおける施工図を学生たちが作成し、それら学生案を実務者に提案する試みを行った。
10. 学生が積極的に参加する講評会の実践	2009年12月～現在	建築設計演習の講評会にて、全発表に対するコメントを所定の用紙に学生に書いてもらい、一人一人が会の構成員であることを自覚してもらう。また発表に対する口頭質問も学生に行ってもらう。
11. 研究成果の講義へのフィードバック	2009年05月～現在	担当する講義において、最新研究成果を取り入れた授業を展開している。また居住空間構成法や風景構成法といった制作調査研究の手法の体験も取り入れ、学生たちの研究への興味関心を喚起している。
12. 授業内容の学科ホームページ上での報告・公開	2009年04月～現在	演習科目やフィールドワーク科目など、可能な範囲で授業内容を学科ホームページ上で報告・公開している。
2 作成した教科書、教材		
1. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2014年度「建築設計総合演習Ⅱ」課題2の課題説明書等	2014年11月～2015年02月	建築設計総合演習Ⅱ課題2「膜を用いたケーブルドームの制作」の課題資料の作成
2. 武庫川女子大学大学院建築学専攻2年　2014年度「建築設計実務Ⅱ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2014年04月～05月	建築設計実務Ⅱ課題1「可動式組立機構を持つ紙管ゲルの屋外設置」の課題資料の作成および原寸大モデルの屋外設置基本設計、監理、ライトアップ
3. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2013年度「建築設計総合演習Ⅱ」課題2の課題説明書、原寸大モデル等	2013年11月～2014年02月	建築設計総合演習Ⅱ課題2「可動式組立機構を持つ紙管ゲルの制作」の課題資料の作成およびそれに伴う楕円平面を採用した原寸大モデルの材料調達と作成
4. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2012年度「建築設計総合演習Ⅱ」課題2の課題説明書、原寸大モデル等	2012年11月～2013年02月	建築設計総合演習Ⅱ課題2「茶室の制作」の課題資料の作成およびそれに伴う待庵を模した原寸大の茶室の材料調達と作成
5. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2012年度および2013年度　「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2012年04月～05月および2013年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「闇と光と空間」の課題資料およびそれに伴うダンボールを使用した原寸大スタディモデルの作成
6. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2011年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2011年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「光と闇と住宅」の課題資料およびそれに伴うダンボールを使用した原寸大スタディモデルの作成
7. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　2010年度「建築設計総合演習Ⅰ」課題1の課題説明書、原寸大モデル等	2010年04月～05月	建築設計総合演習Ⅰ課題1「地球環境に配慮した組立て生産型の独立住宅」の課題資料の作成およびそれに伴う木製ブロックを使用した原寸大モデルの材料調達と作成
8. 武庫川女子大学建築学科2年　「建築設計計画Ⅱ」	2009年10月～現在	建築設計計画Ⅱにおける「「人間行動と建築空間の調査

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
の講義資料		・分析方法」の講義スライドの作成
9. 武庫川女子大学建築学科3年　2009年度　「建築設計演習Ⅳ」課題2の課題説明書等	2009年10月～12月	建築設計演習Ⅳ課題2「隣と親しくなる中低層の集合住宅」の課題資料の作成
10. 武庫川女子大学大学院建築学専攻1年　「建築計画論Ⅰ」の講義資料	2009年09月～現在	建築計画論Ⅰにおける居住空間構成法、風景構成法、空間図式と建築的空間等に関する講義スライドと配布資料の作成
11. 武庫川女子大学建築学科3年　「建築設計計画Ⅲ」の講義資料	2009年05月～現在	建築設計計画Ⅲにおける「人間の空間図式と発達」の講義スライドの作成
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 千葉工業大学　2008公開講座にて講演	2008年10月18日	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
4 その他		
1. 武庫川女子大学附属高等学校2年生を対象とした「科学演習実験Ⅱ」	2015年09月29日	講義「建築の空間とデザイン」と校舎見学案内を行った。
2. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2015 4年生課題主担当（第6回 ICSA in Japan）	2015年06月22日～07月25日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2015において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
3. 武庫川女子大学附属高等学校3年生を対象とした「科学演習実験Ⅲ」	2015年05月25日	矩形の平面材の組合せによる塔の制作を行った。
4. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2014 4年生課題主担当（第5回 ICSA in Japan）	2014年06月26日～07月29日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2014において4年生課題「建築設計演習Ⅴ課題3水辺の楽園」を担当した。
5. 武庫川女子大学附属高等学校3年生を対象とした「入学前教育」講義	2014年02月03日および02月07日	建築学科進学予定者を対象として、建築の広がりやその普遍的な魅力の紹介、建築家という仕事の概要、大学における心構えなどの講義を行った。
6. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2013 引率担当（第4回 ICSA in Istanbul）	2013年10月01日～17日	トルコのバフチェシヒル大学において大学院対象の保存修復関連の実習を行うInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2013 の引率を担当した。
7. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2010 引率担当（第1回 ICSA in Istanbul）	2010年09月23日～10月09日	トルコのバフチェシヒル大学において大学院対象の保存修復関連の実習を行うInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Istanbul 2010 の引率を担当した。
8. 雲雀丘学園高等学校（兵庫県）における大学模擬講義	2010年07月10日	まずは紙で折半構造を構築する体験を行い、その後、建築学における強・用・美の特に美の重要性、欧米と日本との建築教育や資格制度の違い、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
9. Inter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2010 3年生課題主担当（第2回 ICSA in Japan）	2010年06月22日～07月27日	トルコのバフチェシヒル大学の学生を日本で受け入れるプログラムInter Cultural Studies of Architecture（ICSA）in Japan 2010において3年生課題「建築設計演習Ⅲ課題3大規模な群集を安全快適に誘導する駅舎」を担当した。
10. 奈良県立平城高等学校における大学模擬講義	2009年09月24日	建築学における強・用・美の特に美の重要性、欧米と日本との建築教育や資格制度の違い、大学における実際の演習の様子の紹介などの講義を行った。
11. 千葉県立船橋北高等学校における大学模擬講義	2008年11月	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
12. 吉林大学工学部機械科学與工程学院工業工程系における講演	2008年09月09日	中国の吉林大学工学部機械科学與工程学院工業工程系において講演「日本の庭園」を実施した。
13. 千葉県立成東高等学校における大学模擬講義	2008年06月	風景構成法の発達的変容の解説と、それに基づく広重の風景画など日本の風景の見かたの特徴の解説を行った。
14. 千葉県立成東高等学校における大学模擬講義	2006年06月	伊勢神宮をはじめとする日本建築の多くの事例をスライドで紹介し、日本の伝統的空間の諸特徴を心理学的知見や比較文化的知見等とともに解説した。
15. 国立台北科技大学設計学院工業設計系における大学院デザインワークショップ	2005年11月04日～11日	台湾の国立台北科技大学設計学院工業設計系において研究スペースの設計を題材とする大学院デザインワークショップ（嶋村仁志、彭瑞◆、柳沢和彦）及び講演「風景構成法と日本の空間」（柳沢和彦）を実施した。◆：王へんに文
16. 千葉県立幕張総合高等学校における大学模擬講義	2005年11月	伊勢神宮を例として、日本の伝統的空間の諸特徴を心理学的知見や比較文化的知見等とともに解説した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士（第305560号）	2002年03月08日	「一級建築士」とは、国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、建築物に関し、設計、工事監理その他の業務を行う者をいう。（建築士法第2条第2項）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 生活空間の構成に関わる空間図式の発達的研究－居住空間構成法および風景構成法の考察を通して－	単	2003年3月24日	京都大学博士（工学）	本論文は、生活空間の構成に関して人間にとって普遍的で根源的な原理が存在すると考えられる、子供の内的世界の空間図式の解明を目的としたものである。箱庭療法をヒントに考案された居住空間構成法や風景構成法による作品群の詳細な分析を行うことで、その諸特徴を明らかにしている。具体的には原初的包含性、列状性、正面性、原初的構造性、内外空間区別性、内外空間の構造化の展開という空間図式を明らかにした。（京都大学　第3718号）
3 学術論文				
1. Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2016年	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 3rd International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015, Selected Papers (pp.57-64). Istanbul: Bahcesehir University Press.	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らが持つ、家のファサードのイメージの典型的な特徴を、日本の事例との比較を通して明らかにした。これまでに実施した山のイメージに関する研究と同様に、そこには発達的要因よりもむしろ文化的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
2. 慢性期統合失調症者を対象とした居住空間構成法の空間構成の類型－風景構成法との比較を通して－（査読付）	共	2014年04月	日本建築学会計画系論文集，第79巻，第698号，pp.1015-1024	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では慢性期統合失調症者を対象とした居住空間構成法の空間構成の類型を明らかにすることを目的として、風景構成法と比較をしながら49事例の分析を行った。そこでは5類型が抽出され、人間が持つ本質的な空間図式に基づく庇護的空間の諸類型の一可能性等が考察された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
3. Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2013年	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's Univ., Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Selected Papers (pp.117-124). Nishinomiya: Mukogawa Women's University Press.	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの山のイメージの特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例における山のイメージとの比較から、両者は幼稚園児から既に対照的な特徴を示し、従ってそこには発達的要因よりもむしろ文化的・風土的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
4. Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Turkish Students Based on Landscape Montage Technique（査読付）	共	2012年	Intercultural Understanding, vol.2, pp.65-70	本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、トルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの「枠」に対する川の類型の発達的特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例との比較から、両者の「枠」に対する川の類型の発達的特徴は同じ傾向にあり、従ってそこには文化の枠組みを超えたところの普遍的で根源的な空間図式が関わることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
5. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型－人物との関係に着目して－（査読付）	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集，第76巻，第670号，pp.2477-2485	本論では、ビザンティン美術の最高傑作の1 つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目しながらそれらの類型を抽出した。具体的には「人物の横にある山」「人物を縁取る山」「人物の横にある山＋人物を縁取る山」という3 種類の山の類型を抽出した。そしてそれらの類型の意味をそれぞれ考察することにより、現実の世界と神の世界とを繋ぐ場所としての山の特徴を明らかにした。（猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
6. Architectural Meaning of a River That Connects the Left and Right Sides of Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年	Intercultural Understanding, vol.1, pp.113-120	本論では慢性期統合失調症者を対象とし、人間にとって普遍的で根源的な原理が存在すると考えられる彼らの空間図式の特徴を解明する研究の一つとして、風景構成法を実施した。そこでは「左右の枠を結ぶ川」が非常に多く出現したことから、その川が描かれた全事例の制作過程や空間構成の特徴を詳しく報告するとともに、その川の建築学的な意味を考察

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
7. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church（査読付）	共	2011年	Intercultural Understanding, vol.1, pp.25-30	本論の目的は、ビザンティン美術の最高傑作の1つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、それらの画面構成上の機能を明らかにすることである。分析の結果、山は1つの絵画を異なる場面に区分し、さらには1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていること、そして山は世界を区分する「枠」として描かれたこと、が明らかとなった。（Inomata, K., Okazaki, S., & Yanagisawa, K.：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
8. Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年	ARCHI-CULTURAL TRANSLATIONS THROUGH THE SILKROAD (pp.55-65). Istanbul: Bahcesehir University Press	本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、慢性期統合失調症者に対して風景構成法を実施した。特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づきながら、彼らの空間構成の特徴を明らかにした。またあわせて日本の伝統的空間との類似性を指摘した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
9. 風景構成法に基づく広重の風景版画の空間構成に関する研究ー「枠」と川との関係に着目してー（査読付）	共	2002年09月	日本建築学会計画系論文集，第559号，pp.179-186	本論は建築学的立場から、風景構成法と広重の風景版画との比較を試みるものである。すなわち幼稚園児から大学生までを対象とした風景構成法で得られた、「枠」に対する川の類型化の発達的な知見に基づきながら、広重の風景版画において「枠」に対する川の類型を抽出し、日本の伝統が深く関わる広重の風景版画の空間構成の特徴を、風景構成法による人間学的な見地から明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
10. 風景構成法の「枠」に対する「川」の類型化およびそれに基づく空間構成に関する一考察ー幼稚園児から大学生までの作品を通してー（査読付）	共	2001年08月	日本建築学会計画系論文集，第546号，pp.297-304	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本論では建築学的立場から、風景構成法における空間構成の発達の変容を明らかにすることを目的として、幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施した。ここでは特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づいて、空間構成の特徴を明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす：論文全般を担当）
11. 幼稚園児の居住空間構成法と描画に見る図式の研究（査読付）	共	1999年05月	日本建築学会計画系論文集，第519号，pp.309-316	本論では、居住空間構成法と描画を用いて幼稚園児に理想の幼稚園を表現してもらった。居住空間構成法の空間構成および描画の表現様式や空間関係を横断的に比較、分析し、それらの特徴を抽出することにより、両者に共通する彼らの空間図式の特徴を、構造的側面と内容的側面の両面から明らかにした。また居住空間構成法の四つの発達段階に対応して、描画作品も四つの発達段階に大別することができた。（柳沢和彦，岡崎甚幸，菊池憲一，難波美絵：論文全般を担当）
12. 居住空間構成法と幼稚園児（査読付）	共	1999年04月	日本建築学会計画系論文集，第518号，pp.313-320	本論では、居住空間構成法を用いて幼稚園児に理想の幼稚園の模型を制作してもらった。それらの空間構成を横断的に分析し、特徴的な空間構成を抽出することにより、彼らの内的世界にある空間図式の特徴を、構造的側面と内容的側面の両面から明らかにした。またそれらの作品群を大別することができる四つの発達段階、人形配置の特徴、同一被験者の作品特徴の推移についても考察がなされた。（岡崎甚幸，柳沢和彦，難波美絵：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
13. 居住空間構成法による幼稚園児の空間図式の研究（査読付）	共	1998年	日本箱庭療法学会箱庭療法学研究，第11巻第2号，pp.3-15	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では居住空間構成法という技法を紹介するとともに、幼稚園児に理想の幼稚園を制作してもらい、その制作過程を詳述した事例報告を行った。またそれらから明らかになった空間構成ならびにその背後に存在する内的世界の空間図式について考察を行った。（岡崎甚幸，難波美絵，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
2．学会発表				
1. Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Throu	共	2015年03月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 3rd Internat	（学術論文“Typical House Facade Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Comparison with Japanese Students”の梗概で

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
gh Comparison with Japanese Students（査読付）			ional Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015（運営側の都合でProceedingsが刊行されず）	ある。）本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らが持つ、家のファサードのイメージの典型的な特徴を、日本の事例との比較を通して明らかにした。これまでに実施した山のイメージに関する研究と同様に、そこには発達的要因よりもむしろ文化的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
2. 手記を通してみた自閉症児の空間にかかわる行動特性	共	2012年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1, pp917-918	本研究では、高機能自閉症者自身が著わした手記を分析対象とし、その中から空間とモノに関係し自閉症児に特有と思われる行動を抽出することで、自閉症児の空間にかかわる行動特性を明らかにすることを目的とする。分析の結果、規則性を好む、常同的、モノにこだわる、空間の中でじっとする、歩き回る、空間を怖がる、ファンタジーの中で過ごす、空間に安心するなどの行動特性が抽出された。（松田夏実，柳沢和彦：研究論文指導担当のため担当部分の抽出は困難）
3. Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students（査読付）	共	2012年07月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Proceedings, pp105-110.	（学術論文“Typical Mountain Image of Turkish Students Based on Landscape Montage Technique: Through Comparison with Japanese Students”の梗概である。）本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここではトルコの幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの山のイメージの特徴を明らかにした。またこれまでの日本の事例における山のイメージとの比較から、両者は幼稚園児から既に対照的な特徴を示し、従ってそこには発達的要因よりもむしろ文化的・風土的要因が強く影響していることが考察された。（Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.：論文全般を担当）
4. Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Schizophrenic Patients Based on “Landscape Montage Technique”: Similarity to Traditional Japanese Space（査読付）	共	2011年03月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16-18, 2011, Proceedings, pp117-122.	（学術論文“Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space”の梗概である。）本論では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から、慢性期統合失調症者に対して風景構成法を実施した。特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析し、そして得られた川の類型に基づきながら、彼らの空間構成の特徴を明らかにした。またあわせて日本の伝統的空間との類似性を指摘した。（Yanagisawa, K., & Okazaki, S.：論文全般を担当）
5. Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church（査読付）	共	2011年03月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16-18, 2011, Proceedings, pp67-72.	本論では、ビザンティン美術の最高傑作の1 つである、コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、それらの空間的特徴を明らかにした。具体的には「人物の横にある山」「人物を囲う山」「人物を飲み込む山」「人物の横にあり且つ人物を囲う山」「人物の横にあり且つ人物を飲み込む山」という5種類の特徴を抽出し、神の世界に通ずることができる場所としての山の特徴を明らかにした。（Inomata, K., Okazaki, S., & Yanagisawa, K.：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
6. 統合失調症者の居住空間構成法	共	2008年10月	日本箱庭療法学会第22回大会発表論文集，pp111-112	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では統合失調症者を対象として居住空間構成法および風景構成法を実施した。その中で本論は、彼らの居住空間構成法の空間構成の特徴を報告するものである。分析の結果、廊下のある構成、囲いによる構成、囲いのない構成という3つに作品群を分類することができた。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
7. 統合失調症者の風景構成法における川の類型	共	2008年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）F-2, pp575-576	本研究では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から統合失調症者に対して風景構成法を実施し、彼らの「枠」に対する川の類型の特徴を明らかにすることを目的とする。分析の結果、統合失調症者の風景構成法においては8種類の川の類型が見出され、その中でも特に「左右の枠を結ぶ川」が最も多く出現することが示された。また「枠」と結びつかない「途切れた川」も多く出現することが示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
8. 精神病者の風景構成法における川の類型－健常者の風景構成法との比較より－	共	2005年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）E-1, pp1173-1174	本研究では、空間図式の解明を目指す建築学的立場から精神病者に対して風景構成法を実施し、これまでの健常者の風景構成法との比較から、精神病者の風景構成法における「枠」に対する川の類型の特徴

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				を明らかにすることを目的とする。分析の結果、精神病者では「左右の枠を結ぶ川」が最も多く出現することが判明し、そこには人格水準低下や痴呆症状等が関係していることが示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
9. 視覚的特徴から見たソウルの坐向論議－CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究 その2－	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp497-498	坐向は穴の位置から見た方位、すなわち穴の後の背にした方位を坐、そして穴の正面を向とする。都市の坐向は、宮殿の方向や道路網、発展方向に影響を及ぼすため、その決定は重要事項であると考えられる。本論ではソウルの坐向論議をCG地形モデルを用いて視覚的な観点から考察した。その結果、朝山から主山の眺めが坐向決定の要因になりうることを明らかにし、囲繞の空間の中だけでなく外からも評価する風水思想の世界観が示された。（鏡千恵子，岡崎甚幸，柳沢和彦，天畠秀秋：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
10. キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp915-916	本論では、西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを念頭に、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。聖母マリアやキリストが画面の中心を占め背景の多くが黄金地である4世紀～13世紀、シンボル的な山や庭園が現れる13世紀末～15世紀前半、奥行き感のある自然描写が見られ点景のような人物も見られる15世紀後半～19世紀、という三つの時代区分による考察を行った。（猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
11. ソウルの囲繞空間の視覚的特徴－CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究　その1－	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1，pp495-496	本論では、ソウルの囲繞の空間をCG地形モデルを作成することにより視覚的に示し、風水思想における囲繞の空間の視覚的な特徴を読み解くことを目的とする。分析の結果、周辺の山勢以外の視界に入る遠景の山も、視覚的に囲繞の空間を構成する要素として含まれること、ソウルの主山とされる北岳の形状が、他の山並に比較して際だった特徴を持っていることなどが明らかとなった。（天畠秀秋，岡崎甚幸，柳沢和彦，鏡千恵子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
12. 風景構成法における川の類型の男女差－幼稚園児から大学生までの作品を通して－	単	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）E-1，pp993-994	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここでは風景構成法において典型的な発達指標と見なしうる4つの川の類型に着目して、それらの出現率の男女差を検討した。その結果、「上下の枠を結ぶ川」「地平線と下枠を結ぶ川」は男子に多く描かれる傾向があり、「此岸なしの川」「下枠と横枠を結ぶ川」は女子に多く描かれる傾向があることが判明した。
13. 川別に見た山の構成の発達的特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その3－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1069-1070	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論は、山の構成を川の類型別に分析するものである。水平の川では「川にのる山」が多く、斜め、垂直、先細りの川では「上方の山」が多くなる傾向や、山の構成の発達的変容が川の構成の発達的変容と対応していること等が明らかとなった。（猪股圭佑，柳沢和彦，原　祥子，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
14. 学年別に見た山の構成の発達的特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その2－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1067-1068	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論では、「枠」と山との関係、川と山との関係に着目して分析を行い、「下枠にのる山」「川にのる山」「上方の山」の3類型を抽出した。また学年が進むにつれて「下枠にのる山」「川にのる山」から「上方の山」に移る発達的な変容の様子が明らかとなった。（原　祥子，柳沢和彦，猪股圭佑，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
15. 社寺参詣曼荼羅における山の類型化－社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1071-1072	社寺参詣曼荼羅とは、16世紀中頃から17世紀中頃にかけての民衆への仏教、神道の信仰の奨励のために描かれた絵図である。本論では社寺参詣曼荼羅を山の描かれ方に着目して分類を行い、これまでに行った川の分類とあわせて、社寺参詣曼荼羅に特有の風景構成を明らかにすることを目的とする。分析の結果、4種類の山の類型を抽出し、遠景の山に縦の川、近景の山に横の川という社寺参詣曼荼羅の2つの特徴的な風景構成を見出した。（上野達哉，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
16. 箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法の位置づけ－幼稚園児から大学生までの風景構成法における	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）E-1，pp1065-1066	本研究では、風景構成法における山の構成の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。それに先立ち本論では、箱庭療法と風景構成法と居住空間構成

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
山の構成について　その1－				法という三技法の位置づけに関する考察を行った。箱庭では「世界構成」が、風景構成法では「世界構成」に包含される関係にある「風景構成」が、そして居住空間構成法では「世界構成」や「風景構成」に包含される関係にある「居住空間構成」がなされるということが考察された。（柳沢和彦，猪股圭佑，原　祥子，岡崎甚幸：論文全般を担当）
17. 広重の風景版画の川による構成分類－幼稚園児から大学生までの風景構成法との比較から－	共	2002年09月	日本箱庭療法学会第16回大会発表論文集，pp90-91	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本論では建築学的立場により、広重の風景版画において川による構成分類を行い、幼稚園児から大学生までの風景構成法との比較からそれらの特徴を明らかにする。分析の結果、広重の風景版画においては、子どもの典型的な特徴である「此岸なしの川」「左右の枠を結ぶ川」で最も高いピークが見られる等の特徴が明らかとなった。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
18. 居住空間構成法とピアジェ型実験との比較	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1，pp825-826	本論ではピアジェ再考の一研究として、幼稚園児の居住空間構成法とピアジェ型実験とを比較し、両者の対応関係を明らかにすることを目的とする。比較の結果、居住空間構成法の「原初的」「場の発生」「囲いと場の混在」に対応するピアジェ型実験の特徴は、誤反応が多いということ以外は見いだせなかった。それ故ピアジェ型実験が正誤の判断に立脚するものであり、日常生活に基づく子供の多様な空間図式の解明には結びつきにくいことが明らかとなった。（柳沢和彦，岡崎甚幸：論文全般を担当）
19. 多視点の風景画における注視行動－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究　その2 －	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1，pp787-788	本論では、異なる構図的特徴をもつ多視点の日本の風景画群を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。それにより各風景画における注視行動の特徴を解明し、注視行動と関連ある多視点の風景画の特徴を明らかにする。分析の結果、多視点の風景画では「直投影で立面的」「俯瞰的」「斜投影で俯瞰的」という3種類の構図をもつ風景画を鑑賞したが、これらの構図よりも絵画要素の配置の仕方や色調が注視行動に大きく影響することが明らかとなった。（呉　怡貞，岡崎甚幸，柳沢和彦，守山敦子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
20. 一視点の風景画における注視行動－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究　その1 －	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1，pp785-786	本論では、異なる構図的特徴をもつ一視点の日本の風景画群を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。それにより各風景画における注視行動の特徴を解明し、注視行動と関連ある一視点の風景画の特徴を明らかにする。分析の結果、一視点の風景画では「一点に収束する」「一点に収束しない」「一点に収束せず重なりをもつ」という3種類の構図の違いが注視行動に大きく影響することが明らかとなった。（守山敦子，岡崎甚幸，柳沢和彦，呉　怡貞：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
21. 神社を扱った社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究－社寺参詣曼荼羅における川の類型化－	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）E-1，pp789-790	社寺参詣曼荼羅とは、16世紀中頃から17世紀中頃にかけての民衆への仏教、神道の信仰の奨励のために描かれた絵図である。本論では、神社を対象とした社寺参詣曼荼羅からの中世の日本人の空間図式の解明を目的とし、川、山という自然要素の描画の分析から、「縦に流れる川」「横に流れる川」「途切れる川」という3種類の川の類型を抽出し、それらの類型を含む絵図にみられる画面構成の特徴を明らかにした。（上野達哉，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
22. Perception and Behavior in Architectural Space	共	2001年10月	第2回デジタルシティ京都会議　デモンストレーション，京都リサーチパーク	第2回デジタルシティ京都会議にて、京都大学岡崎研究室の研究活動を報告するデモンストレーションを行った。そのデモンストレーションの一環として、建築空間における人間行動に深く関わる空間図式についての、居住空間構成法による一連の研究成果を報告した。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室：居住空間構成法を担当）
23. 風景構成法から見た広重の風景画－風景構成法による空間図式の研究その2－	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）E-1，pp981-982	本論では日本人にとって非常に馴染み深い広重の風景画の空間構成を、風景構成法の視点から分析・解明することを目的とする。ここではその1に引き続き、広重の風景画においても「枠」に対する川の類型を分析する。その結果、広重では10種類の川の類型が抽出された。また風景構成法の結果と比較することで、出現率のピークや両者の相違点などの特徴が考察された。（柳沢和彦，岡崎甚幸，守山敦子：論文全般を担当）
24. 幼稚園児から大学生までの風景構成法の発達的特徴－風景構成法による空間図式の研究その1－	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）E-1，pp979-980	本論は、建築学的立場から風景構成法による研究を実施するものである。ここでは幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、彼らの空間図式の解明を目指して、それらの作品の発達的特徴の分

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				析を行う。ここでは特に、最初に描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを明らかにする。分析の結果、15種類の「枠」に対する川の類型を抽出した。（守山敦子，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
25. 風景構成法の川による構成分類－幼稚園児・小学生・大学生の作品による空間論的検討－	共	2000年10月	日本箱庭療法学会第14回大会発表論文集，pp58-59	本論では建築学的立場から、幼稚園児、小学生、大学生に風景構成法を実施し、「川」の類型を基準として作品分類を行った。そこでは「此岸なしの川」「枠から離れた水平の川」「左右の枠を結ぶ斜めの川」「垂直に立つ川」「上下の枠を結ぶ斜めの川」「下枠と横枠を結ぶ川」「先細りの川」「山から流れ出す川」など12種類の「川」の類型を見出した。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
26. 垂直および斜めの川による構成―小学生の風景構成法についてその2―	共	2000年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）E-1，pp1131-1132	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、小学生の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その際「川」の類型を分析し、そして各「川」毎に作品構成の全体的な特徴を考察する。本論では、発達的特徴を二つにわけた後半部、すなわち垂直の川や様々な斜めの川による構成を報告した。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす：論文全般を担当）
27. 羅列および水平の川による構成―小学生の風景構成法についてその1―	共	2000年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）E-1，pp1129-1130	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、小学生の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その際「川」の類型を分析し、そして各「川」毎に作品構成の全体的な特徴を考察する。本論では、発達的特徴を二つにわけた前半部、すなわち羅列および水平の川による構成を報告した。（高橋ありす，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
28. 探索歩行時における注視と歩行行動の特性に基づくシミュレーションモデルに関する研究	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集，pp79-84	本研究では、実際の探索歩行時の注視と歩行に基づいたシミュレーションモデルの構築を目的とする。これまで行ってきた実験用迷路における探索歩行時の注視と歩行の分析により、基礎的なモデル化を行い、そのモデル化をもとに注視と歩行のシミュレーションモデルを構築した。そのシミュレーションモデルを実験用迷路に適用して注視行動を再現し、さらにはそのモデルを別迷路にも適用して、その再現性を検討した。（増田博雄，北濱亨，鈴木利友，黒岩将人，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
29. 探索歩行における協調行動の分析―仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究その1―	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集，pp147-152	本研究では、マルチユーザ型仮想現実空間を用いた探索歩行実験を通して、歩行者間の情報交換と環境、および歩行行動の関係を解明することを目指す。その中で本論では、仮想迷路空間内において、探索歩行中に協調行動が発生する環境や状況を設定して実験を行った。協調行動を伴う探索歩行時の、歩行者の状態や迷路内の環境と情報交換の発生との関係、および情報交換がその後の探索歩行に与えた影響を分析した。（鈴木利友，伊藤明宏，増田博雄，黒岩将人，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
30. 廊下及び階段における制限視野歩行実験による行動特性―アイカメラを用いた通常視野歩行実験との比較を通して―	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集，pp73-78	本研究は、歩行行動における周辺視の果たす役割の解明を目指すものである。具体的には周辺視野を制限した状態で歩行実験を行い、その行動特性を、通常視野下での行動特性と比較しながら明らかにすることで、間接的に周辺視が人間の行動に与える影響を浮かび上がらせる。実験の結果、階段下り歩行時の周辺視が最も重要な機能を果たしていること、身体運動に関する周辺視の役割として身体にバランス感覚を与えることなどが明らかとなった。（黒岩将人，鈴木利友，増田博雄，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
31. 居住空間構成法について	共	1999年10月	日本箱庭療法学会第13回大会発表論文集，pp52-53	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本論では居住空間構成法という技法の特性を改めて問い直しつつ、精神病者、小学生、知的障害児、幼稚園児による居住空間構成法の作品の報告を行った。（岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
32. 部分的構成から全体的構成への段階―幼稚園児の風景構成法についてその3―	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1，pp791-792	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その1で得られた表現様式や空間関係の特徴に基づきながら、さらには居住空間構成法や

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				描画との比較を通して、彼らの風景構成法を四つの段階にわけた。その中で本論では、「部分的構成」の段階と「全体的構成」の段階という後半二つの段階について報告した。（高橋ありす，岡崎甚幸，柳沢和彦，阿部麻衣子：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
33. 分裂病者の居住空間構成法による空間構成過程から規則を抽出するシステム	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）A-2，pp453-454	本論文では、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを応用して、分裂病者の居住空間構成法による建築空間の構成過程における潜在的なパターンを客観的に発見するシステムの提案をした。そして壁による構成が主で、かつ、完成作品が直感的に似ていると思われる2つの事例を対象とし、直感的観察から得られる特徴に相当する規則や、あるいは完成作品を一見するだけでは気付かない潜在的な相違点などを抽出することができた。（杉浦徳利，岡崎甚幸，柳沢和彦，穂積輝明：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
34. 原初的から構成的萌芽への段階―幼稚園児の風景構成法についてその2―	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1，pp789-790	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その1で得られた表現様式や空間関係の特徴に基づきながら、さらには居住空間構成法や描画との比較を通して、彼らの風景構成法を四つの段階にわけた。その中で本論では、「原初的」段階と「構成的萌芽」の段階という前半二つの段階について報告した。（阿部麻衣子，岡崎甚幸，柳沢和彦，高橋ありす：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
35. 描画考察に基づく表現様式と空間関係に関する考察―幼稚園児の風景構成法についてその1―	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）E-1，pp787-788	風景構成法とは、箱庭療法をヒントに考案された絵画療法である。本研究では建築学的立場から、幼稚園児の風景構成法の発達的特徴を明らかにすることを目的とする。その中で本論では、既に発表済みである幼稚園児による描画の研究の知見に基づきながら、風景構成法で見られた要素の表現様式や空間関係（要素と要素との関係）の特徴を明らかにした。（柳沢和彦，岡崎甚幸，高橋ありす，阿部麻衣子：論文全般を担当）
36. 居住空間構成法による作品の制作過程から規則性を抽出するシステム	共	1999年06月	日本建築学会近畿支部研究報告集，第39号計画系，pp217-220	本論では、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを応用して、居住空間構成法による作品の制作過程から規則を抽出するシステムの提案をした。また、人間の直観的観察から得られる作品の特徴を、部分的に抽出することに成功し、さらに直観的観察からでは発見困難であった特徴同士の関係も、帰納論理プログラミングにより抽出された配置規則から読み取ることができた。（杉浦徳利，穂積輝明，岡崎甚幸，柳沢和彦：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
37. 幼稚園児の空間構成と図式の研究―居住空間構成法と幼稚園児その3―	共	1998年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2，pp613-614	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、前二報の結果を踏まえながら、彼らの心の中にあると想定される偏在、一様分布、正面性保持、方向性保持、原初的囲い、列状、家具と壁による場の構成、室や廊下による構成などの潜在的図式を抽出した。（岡崎甚幸，柳沢和彦，高橋ありす：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
38. 壁による不完全囲い以降の空間構成―居住空間構成法と幼稚園児その2―	共	1998年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2，pp611-612	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、囲い以降の空間構成として、不完全囲い、不完全囲い群、完全囲い、包括的囲い、完全囲い群、そして廊下や室が壁で明確に構成されてつながりが示される室群統括について報告した。（高橋ありす，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
39. 原初的な空間構成から家具と囲い以前の壁による空間構成まで―居住空間構成法と幼稚園児その1―	共	1998年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2，pp609-610	本研究では、居住空間構成法により幼稚園児に理想の幼稚園の模型を作ってもらい、それらの作品の空間構成の特徴を分析することにより、彼らの内的世界の図式を解明することを目的とする。本論では、囲い以前の空間構成として、偏在、原初的囲い、正面性保持、方向性保持、一様分布、列状、家具による場の構成、出入口的壁、衝立的壁、連接的壁について報告した。（柳沢和彦，高橋ありす，岡崎甚幸：論文全般を担当）
40. 図式の発達段階における部屋概念の発生―居住空間構成法と幼児そ	共	1997年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の3―			, pp397-398	配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、部屋概念の発生の段階を考察し、制作過程より、家具先行、壁先行という特徴を報告した。（菊池憲一，難波美絵，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
41. 発達段階における原初的図式―居住空間構成法と幼児その1―	共	1997年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2，pp393-394	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、原初的図式の特徴を考察し、断片的場面、列状配置、道具間関係希薄、象徴的囲いという特徴を報告した。（難波美絵，菊池憲一，柳沢和彦，岡崎甚幸：共同研究のため担当部分の抽出は困難）
42. 図式の発達段階における室内外空間の区別の発生―居住空間構成法と幼児その2―	共	1997年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2，pp395-396	居住空間構成法とは、1/50スケールに統一された家具や人形、様々な種類の壁等をホワイトボード上に配置して、制作者に理想の居住空間の模型を作ってもらう技法である。本研究では、幼児に幼稚園を作ってもらい、彼らの内的世界の発達過程を解明することを目的とする。その中で本論では、室内外空間の区別の発生の段階を考察し、囲いの発生、完全囲い、庭の完全囲いという特徴を報告した。（柳沢和彦，菊池憲一，難波美絵，岡崎甚幸：論文全般を担当）
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 京都府新総合資料館（仮称）公募型設計競技	共	2011年06月	京都府	計画敷地：京都市左京区下鴨半木町／規模：24,000㎡程度／プロジェクトの特徴：山門、仁王像、懸造、磐座、北山杉、清水焼など京都に固有な風景や素材を引用し、太陽光パネルを意匠の構成要素として積極的に活用した京都府の総合資料館（武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオにおいてCG制作等を担当）
2. バフチェシヒル大学日本文化研究センター，内装基本設計・実施設計・監理・展示計画	共	2010年06月	イスタンブール（トルコ）	用途：展示室／規模：バフチェシヒル大学所有のビルの1階部分　延床面積50㎡／プロジェクトの特徴：既存ビルの1室を改修し、和風のデザインを基礎としながらもトルコ産の木材や意匠で仕上げた小規模展示空間。日本の伝統工芸品や大工道具等が展示される。（岡崎甚幸，Murat Dundar，森本順子，柳沢和彦，杉浦徳利，鈴木利友，天畠秀秋）
3. 「慰霊碑デザインコンペティション」 ―旧ソ連による戦後強制抑留、引揚に伴う死没者のための慰霊碑建設デザインコンペティション―	共	2009年10月	独立行政法人　平和祈念事業特別基金	計画敷地：東京都千代田区三番町２　千鳥ヶ淵戦没者墓苑内／規模：慰霊碑苑地 200 ㎡以内／プロジェクトの特徴：樹木に囲まれ、「魂が宿る」場所として勾玉形状の式典スペースを持つ慰霊碑（昭和設計・武庫川女子大学建築学科[岡崎甚幸，吉田博宣，大井史江，柳沢和彦，杉浦徳利，森本順子]）
4. 武庫川女子大学トルコ文化研究センター，内装基本設計・展示計画	共	2009年07月	兵庫県西宮市	用途：展示室／規模：甲子園会館2階部分　延床面積25.0㎡／プロジェクトの特徴：甲子園会館内の2室を改修し、全壁面に展示パネルを配した小規模展示空間。トルコの伝統工芸品や世界遺産の写真等が展示される。（岡崎甚幸，天畠秀秋，柳沢和彦ほか）
5. 京都大学桂キャンパス　総合研究棟Ⅳ（建築学専攻），基本設計・監理	共	2004年03月	京都市西京区	用途：大学／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：地下1階，地上4階，建築面積3440.87㎡，延床面積8683.56㎡／プロジェクトの特徴：1階レベルでの内外一体型交流展示空間、上階レベルでの教官室研究室居住空間、地階レベルでの構造環境実験室群からなる、京都大学大学院工学研究科建築学専攻の新校舎。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
6. 京都大学桂キャンパス　図書館棟，基本設計	共	2003年03月	京都市西京区	用途：図書館／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：地上4階，建築面積2423.52㎡，延床面積6220.8㎡／プロジェクトの特徴：眺望の良い傾斜地において、増築が容易に可能で且つ集会機能を持つ大学図書館。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
7. 真宗寺客殿及び庫裡，基本設計・実施設計・監理	共	2002年08月	福井県鯖江市	用途：客殿及び庫裡／構造：木造，一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造／規模：地上2階，建築面積1546.68㎡，延床面積1497.62㎡／プロジェクトの特徴：積雪地域における象徴的宗教空間を持つ木造の複合用

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				途建築（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
8. 福井県立南越養護学校，基本設計	共	2002年08月	福井県武生市	用途：養護学校／構造：木造，鉄筋コンクリート造，一部鉄骨造／規模：地下1階，地上2階，建築面積9366.16㎡，延床面積9243.26㎡／プロジェクトの特徴：幼稚部から高等部までの一貫教育を行い、かつ地域の特別支援教育を実施できるセンターとしての役割を持つ、県産杉を多用した養護学校。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
9. 京都大学桂キャンパス　Cクラスターマスタープラン，基本計画	共	2002年01月	京都市西京区	用途：大学／構造：プレキャストプレストコンクリート造，鉄筋コンクリート造，鉄骨造／規模：総合研究棟Ⅲ（物理系専攻）：地下2階，地上4階，建築面積9000.00㎡，延床面積27860.00㎡　総合研究棟Ⅳ（建築学専攻）：地下1階，地上4階，建築面積3440.87㎡，延床面積8683.56㎡　総合研究棟Ⅴ（地球系3専攻）：地下1階，地上5階，建築面積7970.00㎡，延床面積25270.00㎡／プロジェクトの特徴： 京都大学大学院工学研究科の物理系専攻、建築学専攻、地球系3専攻（社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻）の新校舎からなるキャンパス。（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
10. 京阪淀駅高架デザイン計画，基本設計（高架のみ一部監理）	共	2001年8月	京都市伏見区	用途：駅舎／構造：駅舎上屋　鉄骨造，高架　鉄筋コンクリート造／プロジェクトの特徴：群集が利用する競馬場に直結し且つ歴史的文脈のある淀城跡に隣接する、ブランクシートを用いた曲面屋根を持つ高架駅（京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室における担当作品）
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. Intercultural Understanding, volume 5	共	2015年09月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第5巻である。ここでは巻頭言、4本の学術論文（査読付）、2014年4月から2015年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体責任編集担当）
2. Intercultural Understanding, volume 4	共	2014年08月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第4巻である。ここでは巻頭言、5本の学術論文（査読付）、2013年4月から2014年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体責任編集担当）
3. Intercultural Understanding, volume 3	共	2013年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第3巻である。ここでは巻頭言、6本の学術論文（査読付）、2012年4月から2013年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体責任編集担当）
4. Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women’s University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Selected Papers	共	2013年03月	Mukogawa Women’s University Press	2012年7月14日～16日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Roadの選定論文集である。この論文集には、当該国際会議で発表された基調講演論文2本、招待講演論文2本、そして選定された35本の一般投稿論文が収録されている。（iaSU2012 JAPAN Publication Committee編：全体責任編集担当）
5. Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women’s University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Proceedings	共	2012年09月	Mukogawa Women’s University Press	2012年7月14日～16日に武庫川女子大学上甲子園キャンパスにて開催された2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Roadの学術講演梗概集である。この梗概集には、招待講演2本、そして査読を受けた71本の一般投稿講演の梗概が収録されている。（iaSU2012 JAPAN Publication Committee編：全体責任編集担当）
6. Intercultural Understanding, volume 2	共	2012年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第2巻である。ここでは巻頭言、8本の学術論文（査読付）、2011年4月から2012年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：論文編集担当）
7. Intercultural Understanding, volume 1	共	2011年03月	Institute of Turkish Culture Studies, Mukogawa Women’s University	武庫川女子大学トルコ文化研究センター紀要Intercultural Understandingの第1巻である。ここでは巻頭言、13本の学術論文（査読付）、2008年12月から2011年3月までのトルコ文化研究センターの活動報告、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				そしてトルコ文化研究センターの組織概要と規程が収録されている。（武庫川女子大学トルコ文化研究センター編：全体責任編集担当）
8. 空間図式を巡る諸概念に関する覚え書きー子どもや精神障害者を対象とした空間構成調査研究の立場からー	単	2010年02月	20世紀の建築作品における生成論的研究―建築論研究の新領域構築の試み[科学研究費補助金（基盤研究B）課題番号18360297，2006～2008，研究成果報告会，研究代表者　前田忠直]，pp34-44	本論は居住空間構成法や風景構成法を用いた空間構成調査研究の立場から、既往研究に見られる空間図式を巡る諸概念を整理して図上に布置することにより、それら諸概念を統合した新しい空間図式像について論ずるものである。ここでは発達心理学の分野、子どもの描画研究の分野、そして臨床心理学や精神病理学の分野に触れながら諸概念を整理し、構造的側面と内容的側面という二つの側面が空間図式には存在すること等を論じた。
６．研究費の取得状況				
1. 2nd International Conference on Archi-Cultural Translations Through the Silk Road　の開催に係る助成金	共	2013年03月	公益財団法人中内力コンベンション振興財団	本会議では、ヨーロッパから日本にまで広がるシルクロード地域諸国の、建築を中心とする生活、技術、文化に関連する内容で、ある特定の国や地域の特徴に関わるものや、異文化間の相互作用の特徴に関わる論文を募集した。会場は武庫川女子大学上甲子園キャンパス、会期は2012年7月14日（土）～16日（月）で、そこでは基調講演、招待講演、一般研究発表、大工実演、茶道体験、京都ツアー等が行われ、会議を通じて世界7カ国64本の一般研究が発表された。（2nd International Conference on Archi-Cultural Translations Through the Silk Road Organizing Committee 委員長 岡﨑甚幸：分担　書類作成等担当）
2. 精神障害者の空間図式に関する実証的研究―居住空間構成法及び風景構成法を通して―	共	2007年～2008	平成19年度科学研究費補助金（基盤研究C）課題番号19560650	本研究の目的は、居住空間構成法および風景構成法を用いて精神障害者の空間図式に関する知見を得ることである。今回の考察では、慢性期の統合失調症者56 事例を対象とした。そこでは、居住空間構成法と風景構成法の空間構成の特徴の対応関係が示され、多様な様相を示しながら廊下や囲いや風景などの空間が解体する傾向とともに、特に「包括型」「左右の枠を結ぶ川」という、人間が持つ本質的な空間図式に基づく庇護的空間の可能性が示された。（柳沢和彦，岡崎甚幸：研究代表者）
3. 20世紀の建築作品における生成論的研究―建築論研究の新領域構築の試み	共	2006年～2008	平成18年度科学研究費補助金（基盤研究B）課題番号18360297	本研究は、建築家の遺した図面、草案、言葉、さらに作品成立を基底づける敷地の特性分析を方法として遂行された。これらの分析を通して、20世紀の諸作品の個々の成立契機が明らかになるだけでなく、これらを包括する普遍的な建築的世界の成立様態や、さらにはこうした世界を具現化する建築家自身の実存のありようなど、作品成立において重層的な生成の構造が見出されることが明らかとなった。このことにより、本研究の独自性を裏付ける「生きられた構成のロゴス(人間的実)」への実証的・存在論的な問いの有効性、可能性が改めて確認された。（前田忠直，朽木順綱，富永譲，柳沢和彦，水上優：研究分担者）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2015年11月～現在	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road (iaSU2016 JAPAN), Mukogawa Women’s Univ., Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016のSteering Committee Chair
2. 2014年04月～2015年03月	3rd International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 25-27, 2015の査読委員会　委員
3. 2014年02月～2014年12月	ENVIRONMENT and DESIGN CONGRESS, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, December 11-12, 2014の査読委員会　委員
4. 2013年04月～現在	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　公共施設プログラミングWG　主査
5. 2011年11月～2013年03月	2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road (iaSU2012 JAPAN), Mukogawa Women’s Univ., Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012のSteering Committee Chair
6. 2011年03月～現在	武庫川女子大学 トルコ文化研究センター紀要　Intercultural Understanding　査読委員
7. 2009年07月～2010年11月	Design シンポジウム2010　若手WG
8. 2009年04月～現在	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　委員
9. 2009年04月～2013年03月	日本建築学会　建築プログラミング小委員会　価値創造モデル化WG　主査
10. 2006年07月～2014年03月	日本建築学会　設計方法小委員会　委員
11. 2004年05月～現在	こども環境学会　学会誌編集委員会校閲部会　委員
12. 2003年11月～2004年05月	こども環境学会　学会組織検討委員会　ワーキングスタッフ
13. 2003年11月～2004年05月	こども環境学会　学会誌編集準備委員会　ワーキングスタッフ
14. 1998年04月～2002年03月	日本建築学会　京都の都市景観特別研究委員会 活動状況報告とりまとめ担当